

校長 橋本 忠

## いよいよ夏の中体連シーズン到来！ 熱い戦いが始まります。

先日、6月13日（木）に定期テストが終了しました。1年生にとっては、中学校での初めての定期テストでした。普段より登校の早い何人かの1年生の表情には緊張感が表れていました。3年生にとっては進路の選択に向かって学習方法を確かめ、これからにつなげていく大切なテストであり、2年生にとっても、学習の成果を測る大切なテストでした。テスト前には、生徒会中心に学習時間の調査が行われ、各学級の結果が昇降口付近に掲示されていました。精一杯努力できた人が多かったようです。テスト結果ももちろん大切ですが、その結果をきちんと自分なりに分析し、授業の中で更に努力を重ねていくことがさらに大切です。教科担任からも丁寧な指導があったと思いますが、日々の授業や家庭学習での小さな努力の積み上げこそが大切です。やはり学問には王道はありません。

さて、6月29日（土）に掛川西中での水泳競技を皮切りに、夏の中体連が開催されます。40年近くも前に野球部に所属していた私ですが、夏の中体連大会の最後の試合の場面は、今でも思い出すことができます。やはり、中学生にとっては部活動は大変大きな意味を持っていて、一生の思い出となります。部員と共に汗を流し、一つの大きな目標に向かって努力をしていく、その中で励まし合ったり、競い合ったり、時には言い争ったりと様々な体験ができます。そして、協力の大切さ、達成感、体力、精神力などたくさん価値あるものを獲得することができます。その中学校最後の大会がこの中体連になります。3年生にとってはこれまで2年半の努力の成果を発揮する時です。

ぜひ、「やり抜く 栄中生」を目指して、悔いのない活動をしてほしいと思います。栄中生の活躍を期待しています。また、保護者の皆様、地域の皆様もぜひご声援をよろしくお願いいたします。



## 子ども育成支援協議会発足会が行われました。

6月6日（木）に栄川中学校多目的室において、H24年度青少年健全育成会総会とH25年度子ども育成支援協議会発足会が行われました。各地区の健全育成部部員の皆様と子ども育成支援協議会の委員の皆様が一堂に会して、これまでの「青少年健全育成会」から「子ども育成支援協議会」への発展的な移行ということで協議が行われました。これまで栄川中学校区では、かなり先進的に、健全育成の取り組みと幼小中一貫教育の取り組みが行われてきました。これら2つの活動をさらに有効に結びつけ、栄川中学校区の子どもの健やかな成長を促すのが「子ども育成支援協議会」です。今後、さらなる具体的な活動に取り組んでまいりますので、ぜひ、ご理解とご協力をお願いします。

### 「努力できるという才能」

6月の朝礼での話

…(省略)…松井秀喜さんの座右の銘が「〇〇できるということが才能」というものだそうです。〇〇に入る言葉は何だと思いますか。実は『努力』という言葉が入ります。読んでみると「努力できるということが才能」となります。

画家で陶芸家の碓伊之助(はざまいのすけ)さんという方の言葉で、松井さんのお父さんがその言葉を聞き、子どものころの松井さんにあげたそうです。その後、松井さんはこの言葉をずっと大事にしてきたそうです。そして、この言葉を励みにして、毎日欠かさず野球の素振りをして大選手になったのです。

さて、松井さんの大切にしていた「努力できることが才能である」という言葉ですが、努力ができることが才能なら、才能は特別なものではない、みんな「努力できるという才能」を持っているということになると思います。

実は、この言葉をよく読んだときに、少し言葉がかくされていると思います。それは、「続けて」という言葉です。努力できるという才能を発揮できるかどうか、**鍵になるのは、「地道に努力を継続できるか」**です。松井選手があの有名な野球選手になるために、毎日素振りを欠かさなかったように、努力しようと決めたことを毎日、少しずつ、継続していくことができるか、これが大切です。先ほどの言葉に少し言葉を付け加えて、「**(続けて) 努力できることが才能である**」とするとわかりやすい気がします。

2,3年生には昨年、「積小為大」という言葉を紹介しました。小さなことの積み上げが大きな成功につながるということでした。松井選手の大切にしていた言葉につながる部分があります。

第3ステージは「活気みなぎる学習と部活のステージ」です。ぜひ、学習において、部活動において、「努力できるという才能」をみんなも発揮してほしいと思います。その才能を発揮するポイントは努力を「少しずつ、毎日、続けて」いけるかどうかですね。

